

県民健康調査や健康長寿を目指した取組等により、全国に誇れる「健康長寿県ふくしま」へ。

○県民健康調査

基本調査

原発事故発生直後から平成23年7月11日までの4か月間の外部被ばく線量を自記式の質問票で推計

<外部被ばく線量推計結果>
0~2ミリシーベルト未満 93.8%

詳細調査【甲状腺検査】

震災時福島県に居住しており、概ね18歳以下であった方を対象

※先行検査：平成23~25年度 本格検査：平成26年度~

【一次検査】超音波画像診断による検査

【二次検査】詳細な超音波検査と血液検査等



甲状腺検査で用いる検査機器

○先進的な研究診療拠点・医療人材の育成

ふくしま国際医療科学センター



福島市の復興を医療面から支える拠点

福島県立医科大学保健科学部



地域医療を担う医療従事者を養成

ふくしま医療機器開発支援センター



国内医療機器関連産業の振興、トレーニングを通じた医療技術向上

【課題・対応等】

- 県民の健康不安の低減
- 介護人材確保や、施設運営の支援等
- メタボリックシンドローム該当者や子どもの肥満・むし歯の増
- 健康意識の醸成による健康寿命の延伸
→生活習慣病による死亡者数 全国ワースト10位 (人口10万人当たり):706.9人 (令和2年2月時点)
- 県民の健康意識の醸成
- 子どもの健康づくり教育による次世代育成
- 受動喫煙防止による健康づくり
- 健診・検診の受診率の向上

○健康長寿を目指した取組

本県の健康指標は、震災以降、全国水準より低い状況が続いており、県民一人一人が自分自身のからだについて関心を持ち、「食」、「運動」、「社会参加」の3つの視点で毎日の生活を見直した健康づくりや健康への気づきを促進する取組を行う。



↑「ふくしま健民アプリ」

健康ふくしまポータルサイト

令和3年4月、健康づくりに関する情報等を発信するため、ポータルサイトを開設



健康づくりをはじめっぺ

(4) 帰還・移住等に向けた生活環境の整備

公営住宅や商業施設、医療・介護施設等の、帰還・移住等に向けた生活環境の整備が進む。

◆公営住宅



いわき市：磐崎団地



大熊町：災害公営住宅

◆商業施設



浪江町：道の駅なみえ



R3.10.17 グランドオープン

大熊町：複合施設
おおくまーと、ほっと大熊、
linkる大熊

◆医療・介護施設



富岡町：ふたば医療センター
附属病院



多目的医療用
ヘリコプター

◆教育施設



小高産業技術高等学校



ふたば未来学園中学校・高等学校



◆特定復興再生拠点区域で 準備宿泊開始

帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域における、準備宿泊の開始及び開始予定は以下のとおり。

※準備宿泊：避難指示区域内で禁止されている自宅での宿泊を特定の可能な制度

- <開始日・開始目標>
- 葛尾村・令和3年11月30日
 - 大熊町・令和3年12月3日
 - 双葉町・令和4年1月20日
 - 富岡町・令和4年春頃
 - 浪江町・令和4年秋頃
 - 飯館村・未定



◆避難地域における取組

ふくしま12市町村移住支援センター

令和3年7月、12市町村への移住・定住の促進、広域連携が効果的な事業や12市町村の移住施策の支援等を行うため、県富岡合同庁舎内にセンターを設置。これまで進めてきた帰還に向けた取組を柱にしなが、移住の促進・交流人口の拡大に向けた取組を進める。

<センターの役割>

- 広域戦略………全国の移住に関心を持つ層への情報発信、仕事や住まいの情報提供
- 移住支援………12市町村への移住希望者相談対応
- ノウハウ蓄積共有……広域的な事業の企画実施、ノウハウの共有



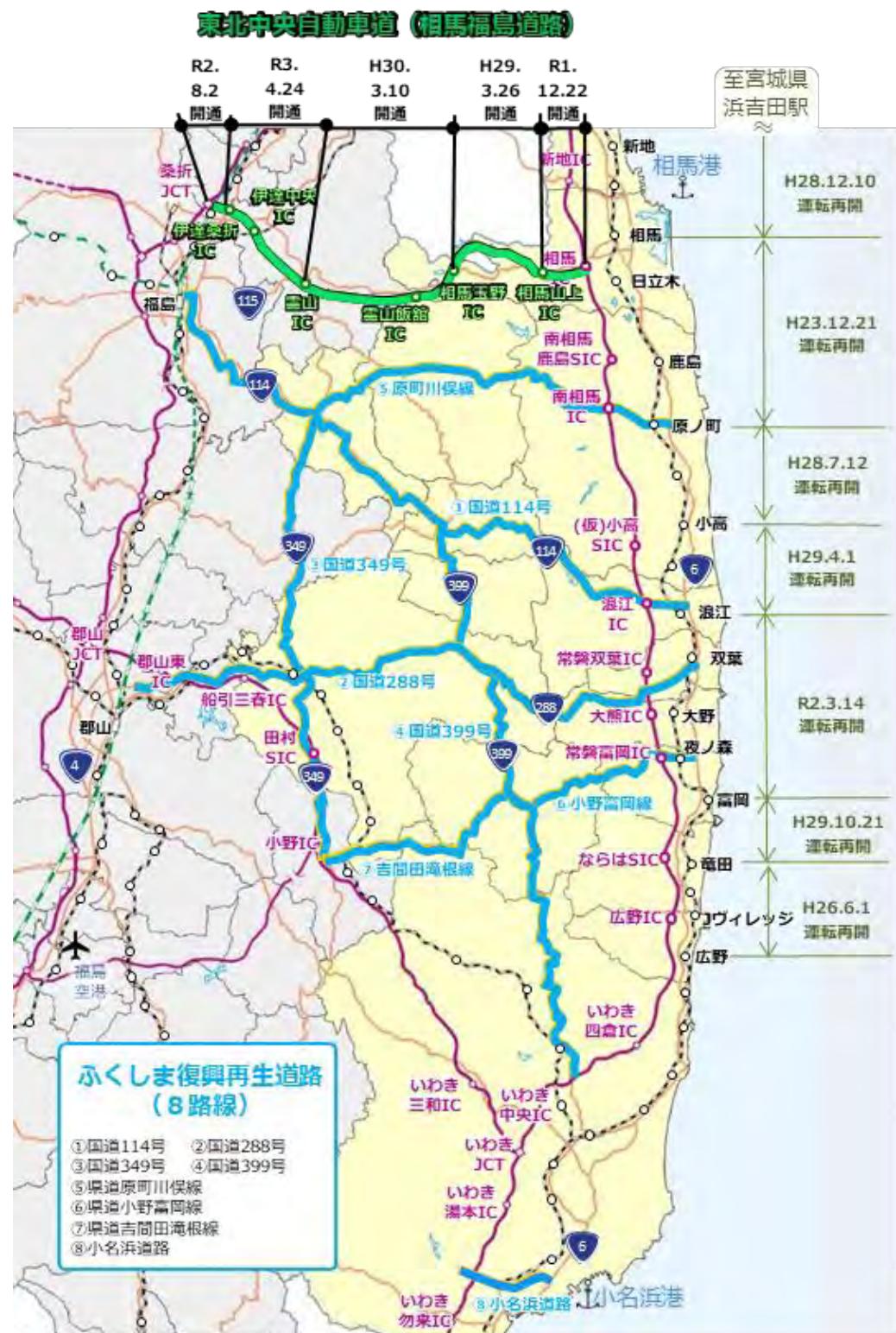
【課題・対応等】

- 住宅・生活再建に関する相談対応、見守り・日常生活支援、コミュニティ形成支援等の継続
- 住民のニーズに応じた、医療・介護提供体制の充実→医療機関再開率39% (令和3年6月)
- 特色・魅力ある教育の一層の推進
- 移住・定住の促進、関係人口・交流人口の拡大

(5) 公共インフラ等

災害復旧工事は全体の99%が完了し、ふくしま復興再生道路等の整備も進む。

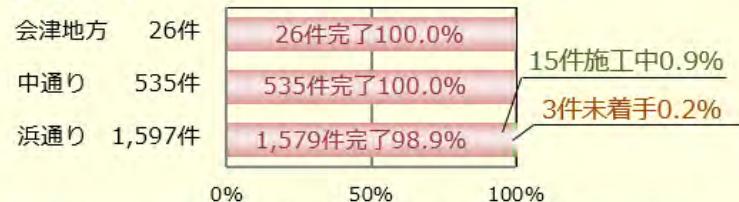
【道路等の交通網】



災害復旧工事 着工99% 完了99%

【令和3年10月31日現在】

【地域別内訳】



【場所別内訳/完成率】

- 100%：港湾、漁港、下水、公園、公営住宅、橋梁、砂防
- 約99%：道路
- 約97%：河川
- 約96%：海岸

【避難指示区域】



災害復旧査定決定数については372カ所あり、うち369件(99%)が着工、355件(95%)が完了しました。帰還困難区域では国が行う除染などと調整を図りながら計画を進めていきます。



東北中央自動車道(相馬～福島)
令和3年4月24日 全線開通



常磐自動車道(いわき中央IC～広野IC)
令和3年6月13日 4車線運用開始



請戸漁港 令和3年11月20日竣工式
県内被災10漁港復旧完了



JR常磐線
令和2年3月14日全線運転再開

【課題・対応等】

- 帰還困難区域内の公共土木施設の復旧
- ふくしま復興再生道路①～⑧の整備、避難地域12市町村内の道路整備

(6) 産業 ① 農林水産業

県産品の価格は回復傾向にあるものの、震災前の水準まで回復していない品目がある。一方、輸出状況は震災前と比較すると増加し、被災地においても営農が徐々に再開。

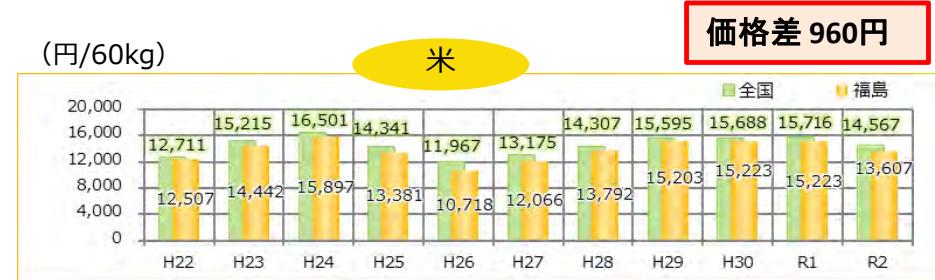
○農産物の輸出状況



東南アジアへの農産物の輸出促進 !!



○主な農産物価格の推移



※R2年の価格はR3年9月末までの数値に基づく暫定値



※R3年の価格は1~10月の数値を元に作成

～福島県産食品の輸入規制状況～

【令和3年9月22日】

- 広い品目で輸入停止している国・地域 (4)
中国、香港、台湾、マカオ
- 一部の食品の輸入停止をしている国・地域 (1)
韓国
- 検査証明書の添付等により、食品の輸入を認めている国・地域 (9)
インドネシア、フランス領ポリネシア、EU、英国、アイスランド、ノルウェー、スイス、ロシア、リヒテンシュタイン

本県産食品の輸入規制を行った国と地域の数

- ・ 原発事故直後 55
- ・ R3.9.22時点 14

※41の国と地域で規制が撤廃

新たなブランド米「福、笑い」デビュー



・ 日本一の米をつくりたいとの思いで、14年の歳月をかけて開発し、甘み、香り、ふくよかさが自慢のトップブランド米

・ 「福、笑い」をけん引役とし、県産米全体のイメージ及び販売価格を向上

スマート農業の推進



林業を担う人材育成

完成イメージ



令和2年度オンラインストア
過去最高売上33億円突破



<https://fukushima-pride.com/>

被災地での営農再開



鳥獣被害

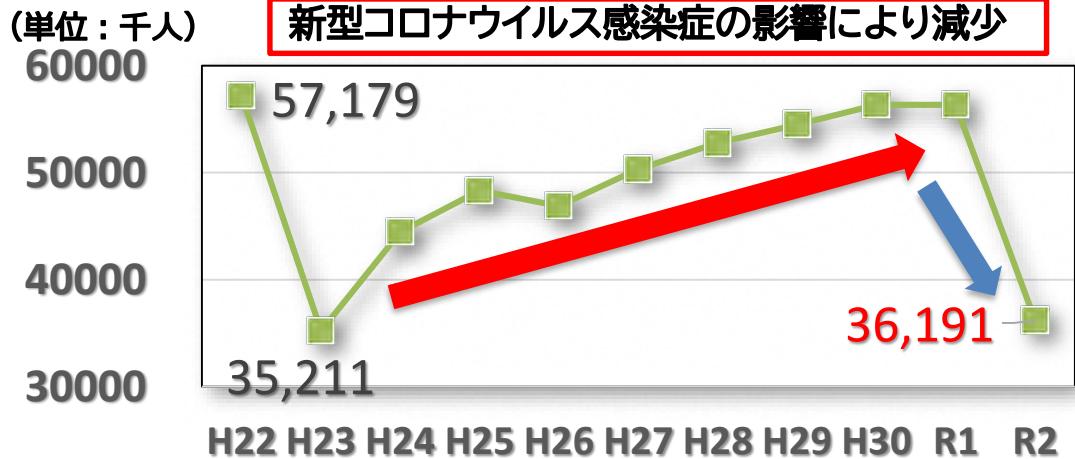


【課題・対応等】

- 国内マーケットにおける農林水産物の価格ポジション回復 (ブランド化の推進)
- 営農再開の一層の加速、先端技術の開発・実証、新たな担い手の確保
→被災12市町村の営農再開面積 再開率:38.0%(令和3年3月)
- イノシシ等による農作物の鳥獣被害対策
- 森林整備と放射性物質対策の推進、原木林や特用林産物の産地再生
- 沿岸漁業の操業拡大、販路拡大支援、漁業者や経営体の確保・育成

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、大幅に入込数が落ち込み、教育旅行入込は平成14年度調査開始以来、過去最少。

○観光客入込



ホープツーリズムによる福島ならではの学びの推進

福島県 ホープツーリズム

検索



観光誘客の促進

全国初ラッキー公園



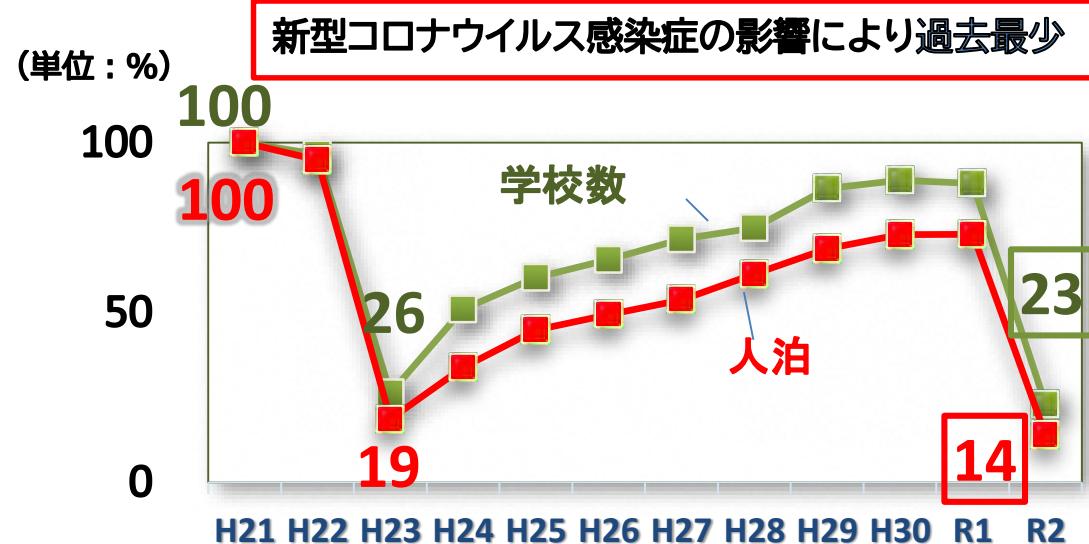
発酵ツーリズム



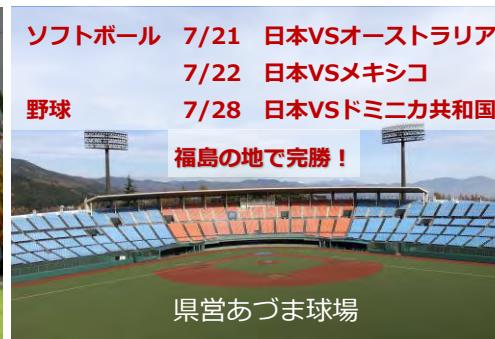
只見線鉄道施設群が
選奨土木遺産に認定



○教育旅行入込 (H21年度=100%とした場合)



東京2020オリンピック 野球・ソフトボールが福島で開催



世界が絶賛!
福島の桃

野球・ソフトボールに出場したチームの監督や選手から「福島の桃はデリシヤス」「こんなにおいしいものは食べたことがない」などの賞賛の声!



○外国人延べ宿泊者数 (H22年=100%とした場合)



【課題・対応等】

- 首都圏や隣接県に重点を置きながらも、新たな顧客獲得による教育旅行の回復
- アフターコロナを見据えた外国人観光客の誘客に向けた情報発信
- 東日本大震災・原子力災害伝承館を始めとする様々な拠点施設と連携したホープツーリズムなど、福島県ならではのプログラム造成による誘客促進
- 復興五輪のレガシーを見据えた情報発信